

赤道直下の東アジア最高峰キナバル山 4095mに登る。

F・Y

北緯 2° 赤道直下の熱帯雨林下のボルネオ島の西海岸。マレーシアの Sabah 州キナバル山 4095m に登った。西遊旅行の企画に参加した。

15 人の登山客と日本人ガイド一人。参加者最高齢 75 歳。70 代は私を入れて 3 人だった。関西からの登山客は 7 名だった。

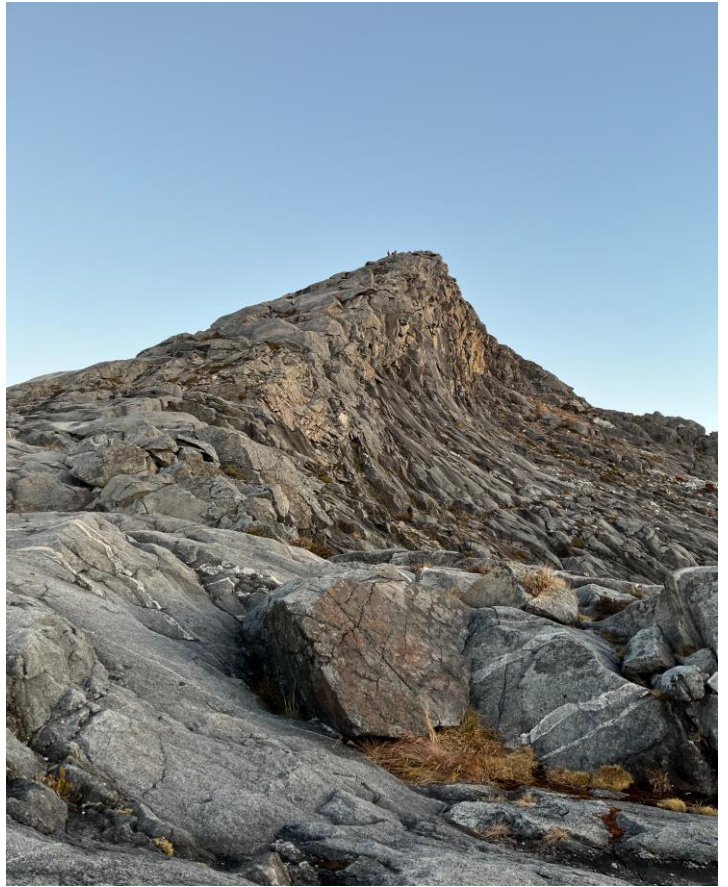
3 月 21 日。AM7:30 に成田空港に集合しコタキナバル空港に 15:00 到着。赤道直下なので暑い。T シャツでも汗をかく。マレーシアはムスリムが 60%だ。今はラマダンなので、ムスリムは朝から日没まで水や食事を取らない。夕方から食事を一斉に取るため街中が賑やかになる。町中に屋台が出て、多くのムスリムが食糧を買い出して、海岸沿いや公園のベンチなど外で家族やカップルで食事をする姿が見られる。モスクから急にコーランが流れ始める。

私も屋台で夕食（牛肉カレー）をテイクアウトし部屋で明日からの山行の準備をする。ホテルの TV ではニュース番組のアルジャジーラを放映している。イスラエルがガザに侵攻し、パレスチナ人をジェノサイドしている様子が良く伝わる。何とかこの虐殺を止められないのか？すでに 34000 人が殺されている。





サウスピーク(左)と影キナバル(右)



キナバル山 4095m

3月22日。パッキングし、6:00にBF。ホテルをA7:30発。約2時間のドライブで国立公園のヘッドクォーター(HQ)に9:00着。ここで現地ガイド4名とポーター3人との顔合わせを行う。ガイド・ポーターは地元の少数民族だ。このエリアのガイドの総数は250名程だそうだ。けっこうな雇用を生み出している。ここでIDを貰う。このIDで途中のチェックポイントで確認する。入山料は一人200リンギット(約6000円)だそうだ。

登山ゲート1890mを10:30に出発する。ガイドの一人がトップを歩き、登山者を間に挟んで残りの三人が最後尾を歩く。約6時間かけて熱帯雨林の中を歩く。今は雨が降っていないので森が乾いている。食虫植物のウツボカズラや珍しい熱帯植物を眺め、写真を撮りながらゆっくりと歩く。植物は4000種類もあり、1000種類がランの仲間だそうだ。野生のゼラニウムが咲いているのを初めて見た。逞しそうな花だった。

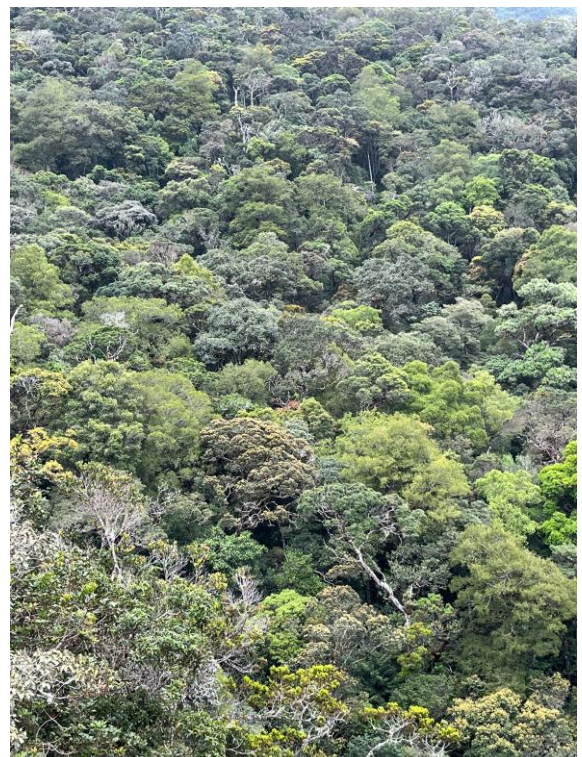
約一時間毎に、シェルターがある。日陰が確保されベンチがある。水洗トイレが付いているので安心して登山ができる。ここは雨が多い所なので有り難い施設だ。道はしっかりと整備されている。手すりもあり、体力さえあれば安全に登山ができる山だ。



熱帯雨林・シダ類が多い



食虫植物ウツボカズラを多く見かける



17:00 にタラナバン 3300m に到着する。ここに 5 つほど小屋がある。小屋といっても日本の小屋に比べものにならない程立派だ。大きな部屋に 1 人が広々と使える清潔なシーツのベッドが 20 近くあり、清潔な水洗トイレもある。小屋全体でキャパは 180 人。一日にこれ以上は泊まらない。夕食は白飯・焼きそば・スパゲッティ・カレー・野菜炒め等お代わり自由だ。食事は旨くはないが三皿もお代わりした。BeerCarsbarg23RG (約 700 円)。美味し。ヨーロッパの小屋も立派だがこの小屋も素晴らしい。日本の小屋はもっと快適に泊まれるように改革するべきだろう。夕焼けが綺麗だ。雲海の広がりを楽しめながら楽しむ。明日の出発が 2 時なので、8 時消灯。でもなかなか眠れない。

3 月 23 日。 4 時間ほどとうとうとしていたら 0:30 起床。トイレ・洗面・ストレッチ・パッキングを行う。1:00 食堂で食事。スタッフは 1 時から働いている。

小屋を 2:30 出発。ヘッドランプを付けて歩き出す。

ほぼ全員、約 180 人の登山者が一斉に動き出す。

道は混んでいる。ヘッドランプの光が一行に繋がり渋滞しているのが解る。3500m 辺りで森林限界を超える。最後の小屋を越え、一本の長いロープを伝いながら大きな一枚岩の花崗岩の上を歩く。

4:00 頃、東の空が燃えている。赤く染まる。雲海の上がオレンジに広がる。左にサウスピークを眺め、右にドンキーイアーロックを眺めながら歩く。ドンキーイアーロックの左耳の岩は 2015 年の地震で崩れ落ちたそう。今は片耳の岩だ。この地震では 17 人の登山者が遭難したそう。日本人も一人亡くなっている。

今でも、登山ルートの一部は崩壊し、閉鎖されている。

6:30 に花崗岩の岩場を這い上がりながら最高地点のロウズピーク 4095m に到着する。

山頂は花崗岩が広く続き、幾つものピークが回りに聳えるでかい山だ。

全面花崗岩の空間だ。山頂直下には記念写真を撮る登頂者が 20 人以上並んでいる。私たちもじっと我慢して並ぶ。7:00 に全員で記念写真を撮る。影コナバルが雲海の上に広がる。360° の良い眺めだ。雲一つない青空だ。心地よい。

ガイドの Sさんはここが 4 回目だそうだが、こんなに晴れたキナバルは初めてだそう。

私の知人が 6 年前に登ったときは雨で川も氾濫し、吊り橋を渡るのや岩場が怖かったと語っていた。今日の天気は快晴でラッキーだ。

7:00 に山頂発。下りは約 2 時間 30 分かけて 3300m の小屋に着く。

小屋の食堂で BF を頂く。焼きそば・スパゲッティ・ブレッドのバイキングだ。美味くないが、お代わりをする。

10:00 発。約 5 時間かけて下る。ゲートに 15:00 着。この 5 時間はきつかった。途中のシェルターで休めるのが有り難い。清潔な水洗トイレが必ずあるのも素晴らしい。

私は 4 人の仲間とグループの先頭を歩いた。スピード制限が無く、自由なトレッキングができたので有り難かった。ゲートに後のグループより 30 分早く到着した。本日は約

12 時間の歩行だった。疲れたが心地よかった。

HQ で 4 名の地元ガイドの方々に感謝の会を行う。3 人のポーターにも感謝した。

本日の 180 人の登山者の殆どが台湾人だった。日本人は私たち 15 人だけだった。挨拶はニーハオばかり、時々ハローが入る。マレーシアの若者もいた。台湾人は若者が多く、装備も貧弱なもので、雨が降ったら怖いと感じた。実際、ガイドに担がれて降りてくる登山者を 3 人ほど見かけた。ザイルが張ってある岩場で怖くて降りられずに躊躇する若い女性がいた。山に慣れていなくて来てしまったのだなと思うような歩き方をしている登山者も多かった。

16:00 から、近くの「マウントボルネオレストラン」で中華料理を頂く。美味し。

西遊旅行ガイドの Sさんは JICA の職員で、ブータンで 1 年働き。CANADA で 2 年。

NZ のミルフォードトラックで 5 年間働いていたそう。タラナキ山やエイベルタスマンやケプラートラックの話をする、懐かしさで話が弾んだ。

私の「60 歳からの海外山旅日記」のパンフを渡すと「メチャ、西遊旅行とかぶってますね」と言われた。タフな女性ガイドだ。

ホテルに戻り、シャワーを浴び、すっきりしたら 21:00 から夕食だ。

「肉骨茶」(パクテー) という料理屋に行く。スペアリブや豚足などの骨付き肉を生薬とともに煮込んだ醤油ベースのスープを白飯にかけて食す料理を頂く。下山して、二度目の食事なので満腹だ。

3 月 24 日。熟睡の後、7:00 BF。

8:30 日曜日なので近くのマーケットを散策。なかなかの賑わいだ。道端で足裏マッサージをやってもらう。30 分 30 RG。心地良い。目の見えない人達の仕事確保の場として国が設定しているようだ。築地市場のようなマーケットを散策。ここでマンゴーを頂く。甘くて美味し。土産の香辛料を買う。マンゴー 1 個 7 RG。

ホテルに戻り、シャワーを浴びて、パッキング。結構な汗をかいた。

やはり赤道直下というのは暑い。

12:30 に「新生雅海鮮楼」に行く。下山してから 3 回目の豪華な食事だ。

ここは海老蟹烏賊の食材を使った高級中華料理屋だった。全て美味し。カールズバーグが美味し。23RG。

15:00 タクシーで Sabah ミュージアムに行く。約 2 時間の見学だが、考古学、歴史、民族、文化など多くのことを学んだ。明や清など中国との交流が盛んだったことも解る。

巨大な薩摩焼きが展示してあった。イギリスの植民地だったので東インド会社のような支配機構があったようだ。

18:00 から MERIDIEN ホテルの 13 階のテラスでマティーニを呑みながら夜景を楽しむ。このホテルは金持ちの台湾旅行者が殆どだった。街はラマダン明けのムスリムたちで賑わっている。子どもたちも涼しくなった夜を楽しんでいる。

21:00 に空港に向かう。0:50 コタキナバル発マレーシア航空 MH-080 機中泊。AM7:20 成田空港に到着。充実した山行だった。

《コースタイム》

3月22日（金）

07:00 ホテル発—10:30GATE（1700m）発 —17:00小屋（3300m）着 小屋泊
（約6時間の登山時間）

3月23日（土）

02:15小屋発—7:30キナバル山頂（4095m）—9:30小屋（3300m）着—10:00小屋発
—15:30 GATE（1700m）着 （約12時間の登山時間）

